

附句

續相鑑

文 研
911.4
Z5
1



點式

倍十三兵

以靜爲用

紅絲石<sup>十一</sup> 兩朱<sup>八</sup> 瀧<sup>六</sup> 增<sup>四</sup> 壺瓢軒  
濃香<sup>九</sup> 薄<sup>七</sup> 兩平朱<sup>三</sup> 長<sup>二</sup> 平 調和

真數各同前

錦上加花

蜀江錦 金章 玉縣 珠 和諧堂  
吳綾 金綺 珠 朱 長 平 立志

壬午六月五日句帳一山形  
二千有五十余唸之中二 甲府

紅絲石 各十兵  
蜀江錦



早稻田大学大学院  
文学研究科図書

日本文学共通  
実験実習費  
53-00541

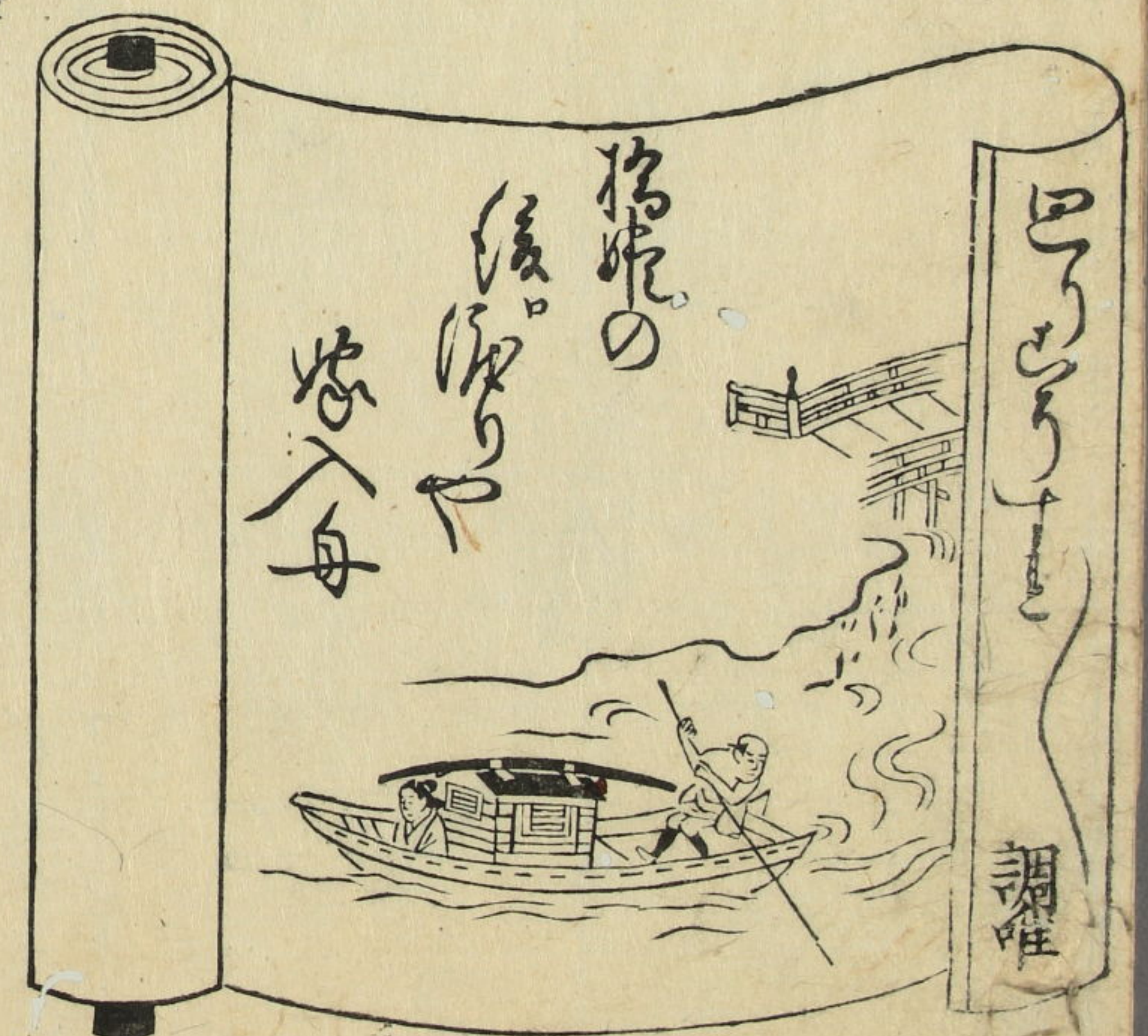
紅絲石 十頁

吳綾 九一

以静為用

錦上加花

此高良之撰句  
當前不相見



山崎の

調唯

橋の

後

家入舟

- 三番 鱗形 青牛子
- 四一 殷根 一江
- 五一 洋寸碧 甲府
- 六一 二八 甲陽
- 七二 井居 二羽半
- 八三 梅浮 加島
- 九四 橘子 甲府
- 一〇 塵土 駿府
- 一一 羽長瀨
- 一二 甲府子
- 一三 山形子
- 一四 旭子
- 一五 村上子
- 一六 三トリ子
- 一七 三子
- 一八 松山子
- 一九 松山子
- 二〇 竹香勝沼子

大妻と  
下りの  
磁石

二日月  
山家の  
金まき止り

糸の  
五臟風之林

石の百貝  
九十九鳴り

仲須掛や  
八挺の  
了段

後  
温純端

二回  
本居

小列の周  
南列

兜子さうりんて車れ片物也  
 酒入る飲やうく飲ほけ此貝  
 竹馬をちと橋のて傷も橋の向  
 舟よりい培り歩じ東海寺  
 ねまゝの庭さくましくねり  
 空馬ふちまを片行の落橋越  
 舟渡の波たふ定とたつ船自  
 子母鏡と握ってぬを堂手。  
 折乃子よち四門とそり浪  
 沙定平のまきとく願住台後

洞水  
 自白  
 意林  
 蘭若  
 破扇  
 吟鳥  
 寄生  
 白糸  
 白翁  
 長全

午六月廿日句帳  
 二千余吟

一勝 行徳 南指  
 二く 勝沼 竹子

濃香<sup>初</sup> 九点

錦上加花 十三一



腰張の壁をみや風の景

ねまゝの庭さくましくねり

以静爲用 十三点

吳綾 中 九



ぬらり

- 三番 サシ 周言 七 草手 感函
  - 四 サシ 得失 八 甲易 調唯
  - 五 サシ 山子 九 下館 透志
  - 六 サシ 岩 十 旭与 秋風
  - 十一 伊勢洋
  - 十二 サシ 上
  - 十三 縁子
  - 十四 羽岳
  - 十五 山形
  - 十六 甲府
  - 十七 宇都宮
  - 十八 上
  - 十九 二舞半
  - 廿 福寫
- 同点之番外 廿  
位負 圃 坊

阿の帝  
阿の帝  
阿の帝

鳥帽子  
繪の  
重之  
三向  
丸

阿の帝  
阿の帝  
阿の帝

阿の帝  
阿の帝  
阿の帝

阿の帝  
阿の帝  
阿の帝

九千 阿の帝

綿介  
阿の帝  
阿の帝

阿の帝  
阿の帝  
阿の帝

戸のくさる様はくさる五月日  
 暮のくさる様はくさる五月日  
 折形の秋のくさる様はくさる五月日  
 花のくさる様はくさる五月日  
 鬼灯のくさる様はくさる五月日  
 夕方のくさる様はくさる五月日  
 羽多て何程かたもくさる五月日  
 河中の花とくさる様はくさる五月日  
 微光をくさる様はくさる五月日  
 けつろくさる様はくさる五月日

雅中  
 松運  
 石山  
 加志久  
 琴滴  
 珠雲  
 立孝  
 蘭之  
 亀口  
 和石

- 一 番 宇都宮
- 二 山形 良風
- 三 旭与 醉月
- 四 耳乳
- 五 小形 夏鹿
- 六 羽如谷 風和
- 七 甲陽 東獸
- 八 雀子
- 九 勝沼
- 十 村上
- 十一 松山
- 十二 阿比
- 十三 真壁
- 十四 甲府
- 十五 志

秋の成り

秋音

仲夏節

かきくさる



日暮り

以静爲用 十三頁

蜀江錦 十一



奈言くと裁の音よ色蕉の羽衣  
 誰衣破るより曲て墓灯籠  
 鳥屋と虫をうらむ子守歌は  
 多しとて蛙別所歌の音と吹  
 抱電心持まて園のわね水  
 扇らや抱て小神の影あり  
 二り夕夕鳴り延てく風と  
 多れたの萱竹忘はて暮と  
 世は黄<sup>ワスレ</sup> 移るよの青し<sup>サカハヤシ</sup> 常  
 老の書くは海の水とを

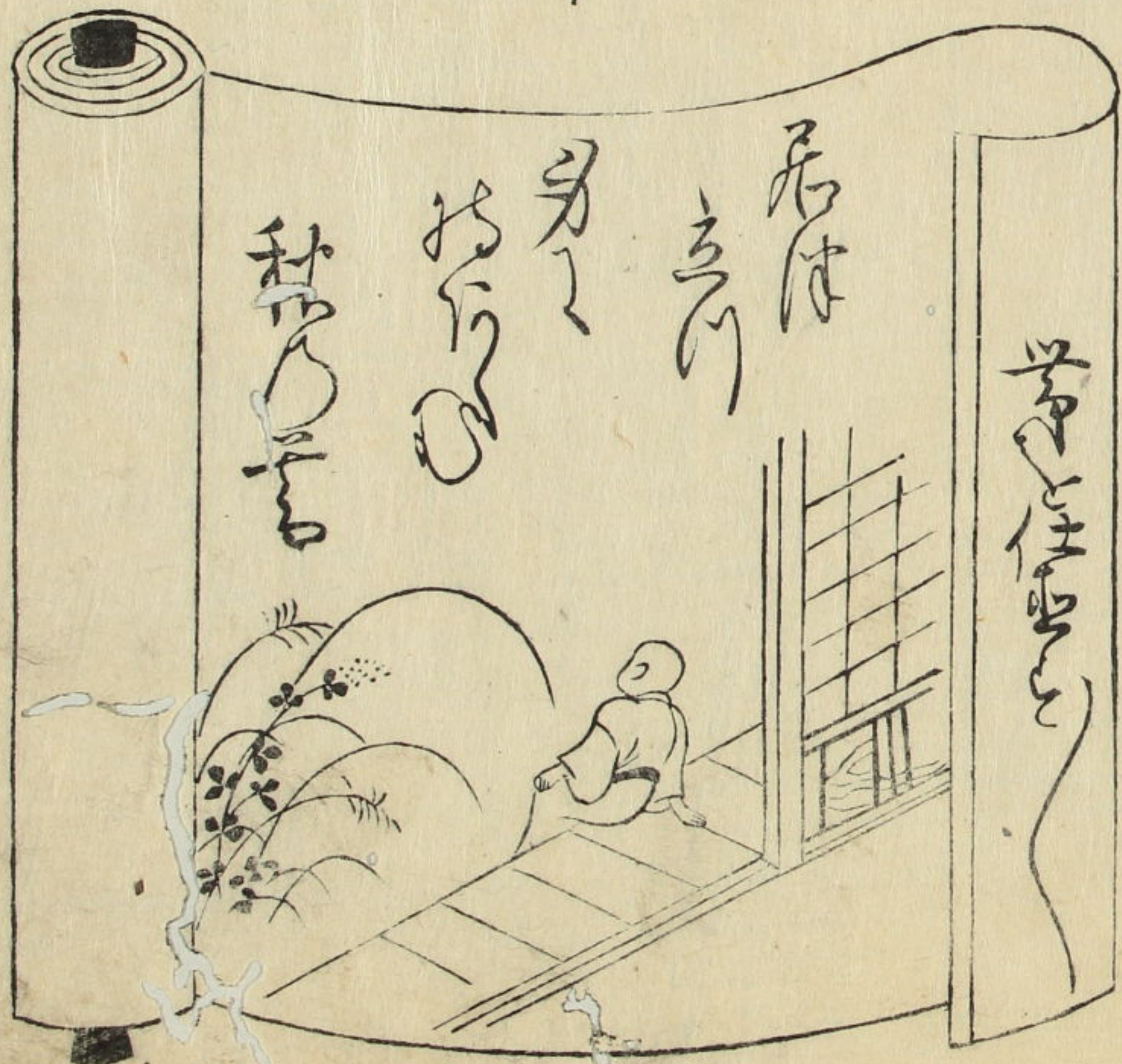
巴流 俄入 扇風 白扇 哥笛 奚疑 破扇 些雪 如栲 井水

壬午七月廿日限  
 一千八百余輩

行徳  
 豊政

兩朱 八点

錦上加花 十三一





芋波仕立

鈍子組  
芦下

濃香 九一

蜀江錦 十一



三番 千手橋  
 加嶋 一草  
 甲府 里柳  
 五ノ 哥笛  
 山形 白  
 七 藤  
 八 棠水  
 九 旭子  
 十 甲陽 一藤  
 十一 牙隣  
 十二 山形 十六村上  
 十三 加嶋 十七 伊勢津  
 十四 二郷半 十八 縁組  
 十五 山形 十九 小松川  
 十六 下館

三

三  
去得毎  
後とく  
翠峰  
看

四  
去得毎  
夕涼  
の縁  
とく

六  
仰とく  
葉とく  
三日月

五  
指さり  
又り  
葉の松

九  
小夜更  
心留  
まらる

十  
形子  
風流  
毎の  
似え

七  
一の  
書  
の  
煙  
名

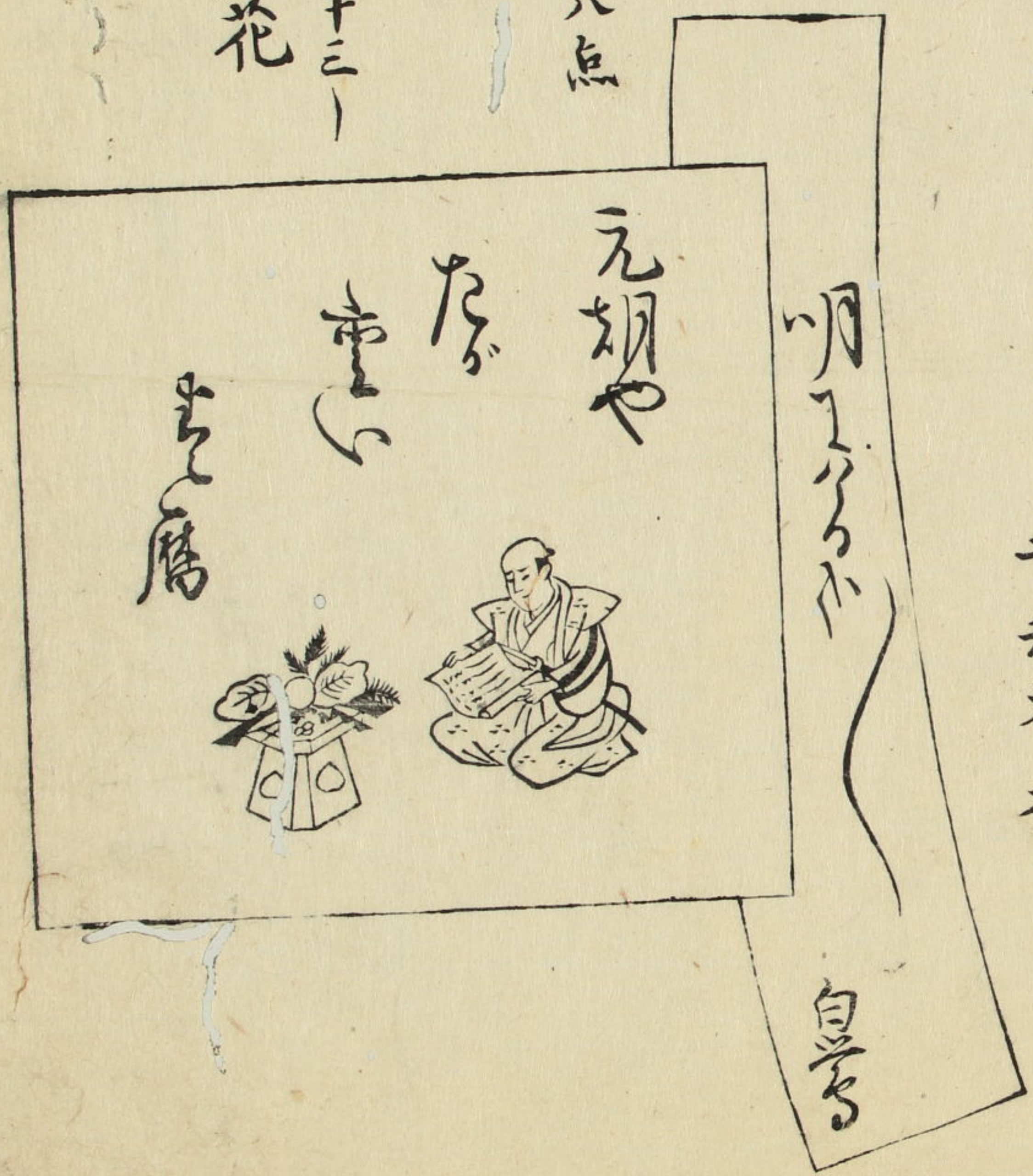
八  
物  
の  
ま  
ら  
の

西村卯のたのほふら  
 西村卯のたのほふら  
 信胎の紅蓮のたのほふら  
 多摩川の舟のたのほふら  
 西陣のたのほふら  
 又のたのほふら  
 新のたのほふら  
 舟入のたのほふら  
 花のたのほふら  
 花のたのほふら

櫻言  
 好雪  
 林石  
 小舟  
 夕友  
 鳥章  
 丹夕  
 如竹  
 夏鹿  
 花吟

壬午八月五日限 一 後河神原  
 一千八百人 二 稻荷橋

兩朱 八点  
 錦上加花 十三



以静爲用 十三

金綺 七

明公の御手紙

水色

香

物



柄抄箱

感函

- 三 小折 夏鹿
- 四 加寫 杜口
- 五 松本 可水
- 六 加嶋 正勝
- 七 旭与 三白
- 八 緑与 一ト
- 九 行徳 使白
- 十 越長 〇組
- 十一 金堂与
- 十二 青牛与
- 十三 白トリ組
- 十四 甲陽
- 十五 駿府
- 十六 真壁
- 十七 甲陽
- 十八 二郡

三 しのび 遊仙の巻

四 白 鳥の 舟

六 白鳥の平井 目花門

五 漢大印 白鳥の巻

八 調物 白鳥

九 白鳥の子 金堂

七 白鳥の巻

十 神船 白鳥



瑞林



錦上加花  
兩朱  
十三点

五行乃  
金の母

高中の  
指月

瑞林

- 三番 イナリ橋 倫和
- 四 青牛 加嶋 一風
- 五 甲陽 哥笛 九 山形 草林
- 六 音早 系水 十 全手 卜巴
- 十一 イナリ橋 十六 宇都宮
- 十二 素石 十七 勝沼
- 十三 加嶋
- 十四 旭子
- 十五 眞壁
- 十六 柳原
- 十七 勝沼
- 十八 神原
- 十九 梅田

十二

三  
う  
蒼  
依  
の  
救

九  
佛  
の  
依  
の  
救

四  
信  
の  
依  
の  
救

八  
水  
騰  
龍  
の  
尾  
切  
旋  
風

十  
八  
景  
の  
十  
六  
景  
水  
の  
依  
の  
救

六  
左  
義  
高  
の  
依  
の  
救

五  
一  
思  
の  
依  
の  
救

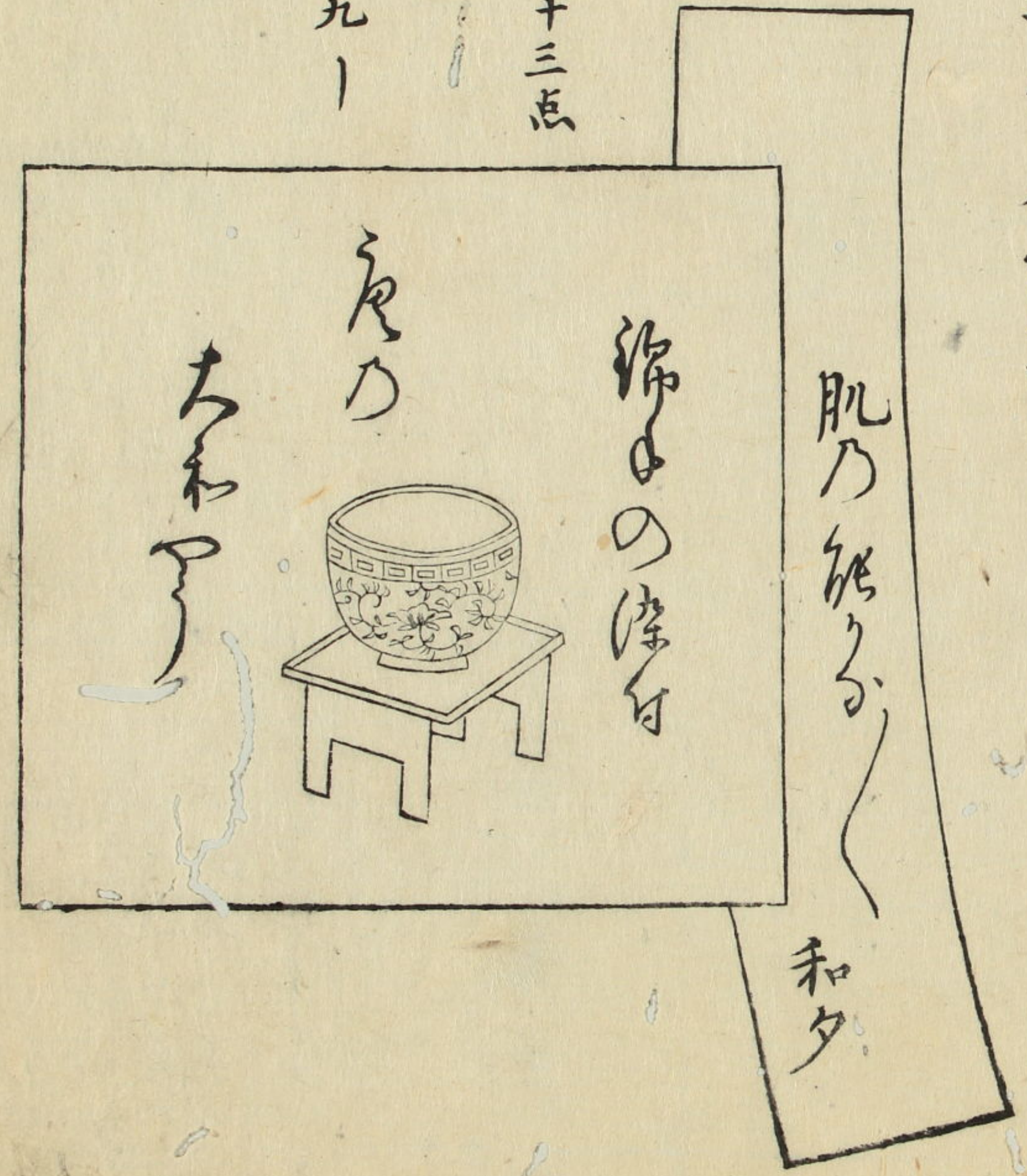
七  
水  
の  
依  
の  
救

うびくさこ柳橋の衣化り  
 居まるとる結り蟻の國  
 湯くよあやまらう。石の如  
 妍カネヨキも漆まきのとを引くま  
 庭の形くまう。巖イハも地骨  
 花梅と六場の費かた破高ひ  
 思ふ流ハ名と明くむ彩守  
 住法よりいで祇園の玉織り  
 多きい庭りわら一ふりま  
 一りの湯のり。二里のち

銀牛  
 丹夕  
 蓮子  
 些雪  
 似真  
 允秀  
 鈍蛙  
 白翁  
 幸角  
 白術原  
しを名

岡八月五日限向長  
 式千八百余吟之中  
 番外十七吟アリ

以静為用 十三点  
 吳綾 九一



兩朱

八點

錦上加花

十三

くさくさ川



流の柯<sup>コ</sup>上<sup>カミ</sup>百<sup>ヒャク</sup>の<sup>ノ</sup>三<sup>サン</sup>幸<sup>サイ</sup>子<sup>シ</sup>の<sup>ノ</sup>

豊政

- 一番 稻荷橋 六 甲府 好元
- 二 行徳 七 青牛
- 三 向榊原 八 駕 素鷗
- 四 山形 紫明 九 雪友
- 五 加鴻 梅淳 十 緑組 紫心

- 十一 行徳組 十六 松本
- 十二 山形 寒河江 十七 示申
- 十三 宇都宮 十八 勝沼
- 十四 駿府 十九 小折
- 十五 旭子 二十 岡崎

十四

柳<sup>ヤナギ</sup>の<sup>ノ</sup>味<sup>アジ</sup>

くさくさ川  
あじの味  
かす

水鏡  
あじの味  
岩嶋

七 東堂楓葉少佐の腕

研<sup>ケン</sup>の<sup>ノ</sup>味<sup>アジ</sup>  
あじの味  
鈍

香<sup>カウ</sup>の<sup>ノ</sup>味<sup>アジ</sup>  
あじの味  
鈍

湖<sup>ウミ</sup>の<sup>ノ</sup>味<sup>アジ</sup>  
あじの味  
黄八丈

神<sup>カミ</sup>の<sup>ノ</sup>味<sup>アジ</sup>  
あじの味  
入

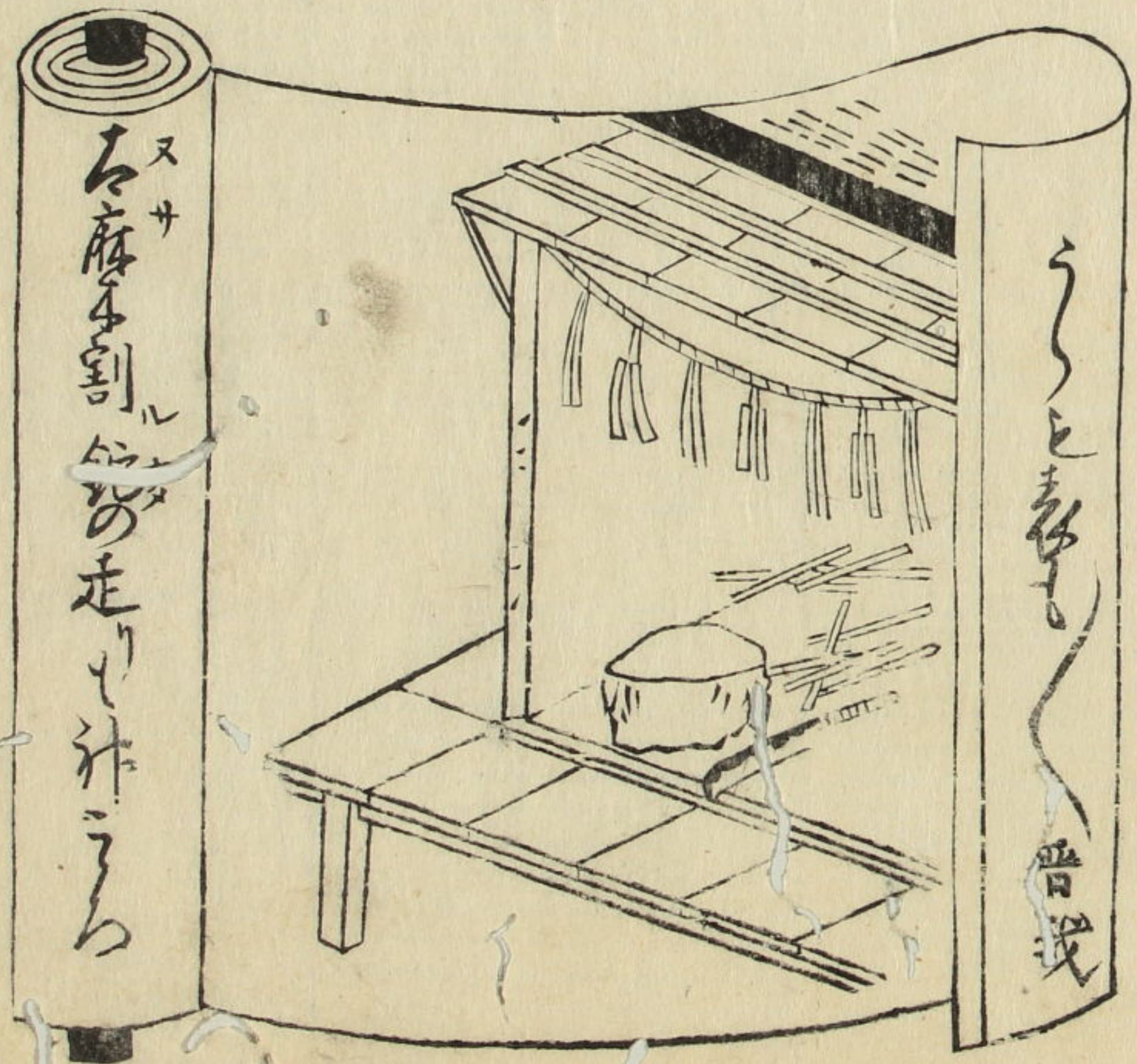
背か搔かるるをいふ  
 月半の白雲入し白く輝  
 けりるのしりぬる母の歌  
 何と峰は群の風をり世年後  
 糸のゆるるをたづねる鳥  
 鈴の肉や海の人からきて  
 頭は花梅の魁れりる白  
 りるをいふ海舟まづ海の石を  
 海産物の名も出は馬肝石  
 瑞之の面影をいふとくまき

南指  
 松葉  
 雪々  
 塵土  
 些雪  
 石龜  
 示申  
 雲言  
 和章  
 巨海

月廿日限句帳 一勝 結城  
 二千有八十八塗 二、山形

濃香 九矣

錦上加花 十三一





甲

背か搔かろるるをいし  
自中ら白雲入し白く輝  
けりるるし水さるる母の歌  
竹と峰は群の凡そり世帯後  
糸あゆみたる路に花の鳥  
鈴の内や海鳥人からきて  
羽の尻振付の鬼れろく白  
けりるるる路に花の鳥を  
海産物の鳥も水吐馬肝石  
瑞之の面影もるるるる

南指  
松葉  
雪々  
塵土  
些雪  
石龜  
示申  
雲言  
和章  
巨海

月廿日限句帳  
二千有八十八塗

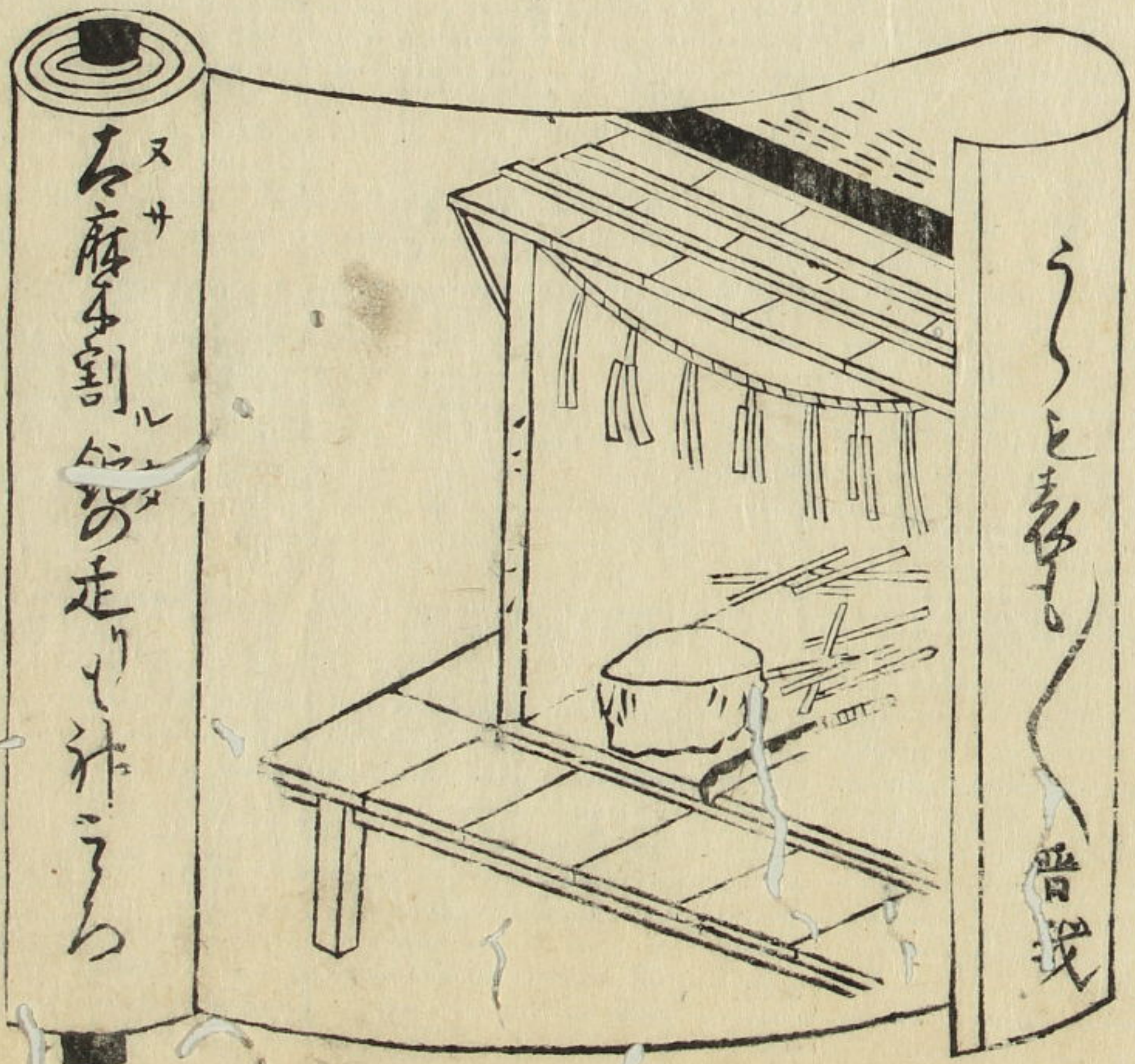
一勝 結城  
二、山形

濃香

九兵

錦上加花

十三



以静為用

十三

金章

八



洗屋スキの

白

白

白

喜しおもしろ

不白

三番 奥島

曲山形 良責

五加鴻 卯葵

白檮原

七甲府 哥笛

八松本 香水

九志願 良性

出見

十一 井水

十二 勝沼 雲言

十三 加鴻 小水

十四 俵 杏雪

壁

十六 長行

十七 行徳 豊政

十八 才組 蘭膳

十九 下野村 和石

京橋

十六

この糸  
この糸

伊勢の客  
床  
圓

意物  
紙コヨリ 綾小

紅筋  
不老門  
とこ

九 夕夕 白白 丸丸

傷  
傷

の  
の

景初や二つとあるはく鳥  
 たしくひの半とまひ左の耳  
 白糸の流もしし系結金  
 若死乃徳程つひと地の衣  
 一雙の結て片方く強屏凡  
 今利程のつと何れ此由院  
 心し標て耳と指じと瘡治  
 衣もろろと如く細ねり食  
 首のい麻の後住に掃除好  
 硝子れ単の行来や中流川

井水  
 雲言  
 水ト  
 春雪  
 少所  
 長行  
 豊政  
 蘭橋  
 和石  
 西夕

午九月五日  
 式千八百余金

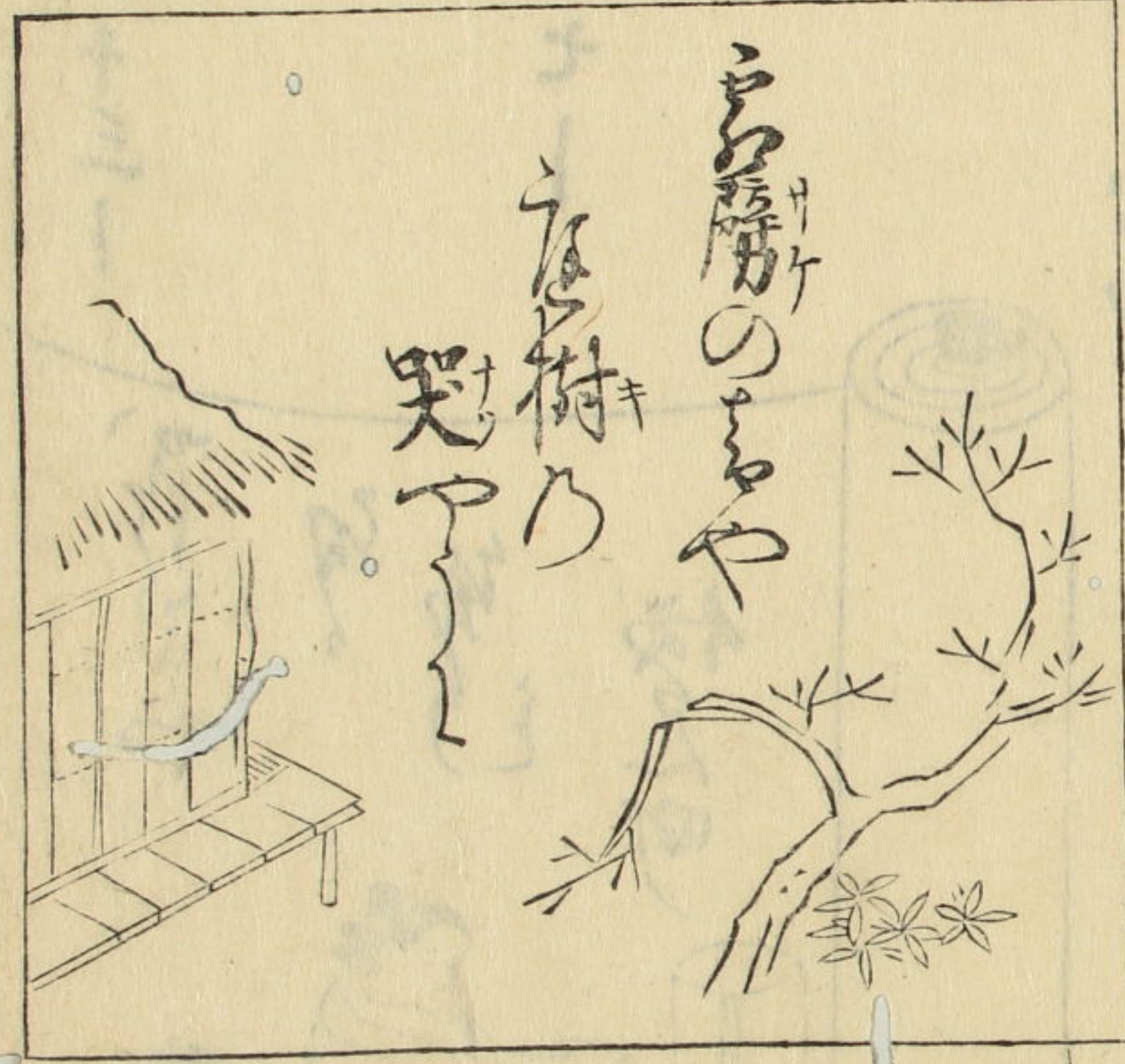
二十全子細

長くと瘡とれ

只圭

濃香 九真

錦上加花 十三一



高麗のまや  
 庭樹乃  
 哭ア

以静爲用

十三

金綺

七一



三番 杉橋

多田

四 寸苗

山形

五 未調

松本

七 加賀 音和

鶴橋

八 兎角

富原

九 花油

坂野

十一 越長子

十二 藤雲

十三 奥列

十四 花村

十六 村上

十七 三平

十八 加治

十九 甲陽

十年

出信

獸炭

お惚ぼの... 銀漢

五

わらびの家

九

新打

梅後の

高林

八 胎内...

七

あまの

新

あまの

山内守

十

金瘡の

徳目

徳目

六

輿入の

あまの

あまの

あまの

ことばのうへに戸山よりしる濟家僧  
 杜宇の秋の榴<sup>スルカシ</sup> 替り朽木  
 次たくとらふとふか舟は海に浮  
 ねるくと火の肉の佐りの評  
 傷とあや一首とふとらふ百とむ  
 ちの海のもの本粒行ふ癰所  
 嚙行く暇も若くあふ<sup>スルカス</sup> 藝石口  
 頬ねたう人の舟て出歯病  
 ちの心ははくとらふ調子す  
 耳痒うゆぬ風 帯食

梅蝶 雌雄 三省 調十 満 葦籬 亀白 一風 素石 古川

午九月廿 限句寄 一勝 鈍子口 老兔  
 式千八百 年余陰之中 二く 組 青牛

紅絲石

各十點

蜀江錦



針ちいあつり 一片れ白牡丹

紅糸石

吳綾 九一



つう松

奥書

つう松

- 三番 甲府 好元 七組 其脊 十一 岩洲 十五 松本 十九 越長の組
  - 四番 京橋 誘水 八組 小見川 翁州 十二 山形 十六 勝沼 廿番 山形
  - 五番 旭組 豊武 九組 駿府 隆至 十三 巴崎 十七 八百市場
  - 六番 行徳 豊政 十組 海原 累紙 十四 真壁 十八 加鳥
- 番外 十余 喰有

山田重と

界のま

服の  
つと  
文  
凭

菊合儀の菊掛紙

相長  
座敷

多  
は  
き

十

三

主  
あ  
人

華衣を穿ててゆくは海なり  
日と影と少く折れ柄抄打  
子と母ととていふは氣  
子と母ととていふは氣  
王<sup>キョウ</sup>と軍ととていふは死軍  
川流と舟ととていふは舟  
窓とと傘ととていふは夜  
晴しと雨ととていふは浮  
人里と海ととていふは店  
史帰舟膳店とていふは後

黒紙  
吟水  
巨海  
似真  
哥川  
山色  
曲枕  
雪滴  
松風  
梅葉

